

# 三陸新報

三陸新報社  
〒988-0141  
気仙沼市松崎柳沢228-100  
電話 0226 (22) 6700(代)  
FAX 0226 (23) 6100  
URL http://www.sanrikushimpo.co.jp/  
e-mail news@sanrikushimpo.co.jp  
© 三陸新報社 2011年

## みんなので がんばろう

# 急保確保場集積



がれきの仮置き場となっている反松公園

## がれき量660万立方メートル

### 沼市 気仙 ガス民営化極めて難しく

東北関東大震災から十五日が過ぎた二十六日、被災した家屋や事業所などで片付け作業が進められる中、県の調べでは、市内のがれき量が約六百六十万立方メートルに上ることが判明。市や自衛隊が道路を中心に除去した分は、まだ約一万三千立方メートルで、全ての撤去には相当の月日がかかる見通しだ。市民からは「災害ごみの仮置き場を早く確保してほしい」という声が出ている。

## 東北関東大震災

市は反松公園に道路が、日増しに余裕が無くなっており、新たな集積場所の用意を進めている。最終的には、谷などを埋めて処分することが考えられるが、がれき量が膨大なため、頭を悩ませている。一般の災害ごみの置き場は検討中だという。

## 他市町へ集団避難

### 南三陸町 佐藤町長「苦渋の決断」

ライフラインの復旧が立たず、仮設住宅の建設にも長期間を要する南三陸町は、支援を申し出た自治体に町民の集団避難を進めることを決めた。二十

六日には町内八つの避難所で説明会が開かれ、佐藤町長は「苦渋の決断。仮設住宅が建設されるまで、よりよい環境で生活してほしい」と理解を求め、登米、大崎と加美、色麻の県内のほか、友好協定を結んでいる山形県庄内町の三市三町で、避難期間は四月から最長で仮設住宅の完成が見込まれる九月までを見込む。



被災した大型漁船が乗り上げた(鹿折地区)

謹んで地震・津波により被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興を目指し、社員一同市民の皆様と共に励んでまいります。復旧に臨む皆様のご健康をお祈り申し上げます。

### 営業再開のお知らせ

営業時間 午前7時～午後5時まで  
早朝のご予約も承ります。  
(しばらくの間、運転代行を休業させていただきます)

# ☎(22)6000

## (株)気仙沼観光タクシー

[田中前営業所] 気仙沼市田中前3-7-11

### 陸上漁船の撤去

## 国県の支援示して 2次災害防止へ固定

気仙沼市で漁船保険に関する打合せが二十五日、松岩小学校で開かれた。船主をはじめ、菅原茂市長、県、気仙沼海上保安署、自衛隊、漁船保険中央会の審査部員ら約七十人が出席。津波で陸上に上がった漁船の固定作業を早急に進めることになった。船主をはじめ、市内の造船場の調査によると、気仙沼湾周辺には二十以上の被災した漁船が少なくも四十隻以上と見られる。鹿折唐桑駅前まで流されたものや、焼けて海上を漂流しているものもある。被災船の船主から

め、まだ活用できないという。水道は松岩階上地区で復旧作業が進められた。市ガスは供給施設の被害は少ないものの、供給先の半分以上が震災で被害を受けており、市が進めていた民営化は極めて難しくなった。市は復旧作業を進めているが、長期的にはプロパンガスへの切り替え検討も求められそうだ。

広域防災センターに置かれている市災害対策本部は、四月一日を目途に市役所へ移す予定で、ワンテン分倉に避難している被災者に失った人たちの二次避難先について、近く明らなように協力を求めている。市の人事異動の

### 民宿などへも 2次避難検討

菅原茂市長は二十六日朝の会見で、家を無くすなどして避難所での集団生活を続けている被災者の仮設住宅が出来るまでの二次避難先として、市内の民宿などを含めて出来るだけ近隣の宿泊施設の確保に向けて調整していく考えを示した。国は災害で自宅を失った人たちの二次避難先として、民宿などへも2次避難を検討している。全国各自治体もある。

### お詫びとお知らせ

この度の地震、津波により、被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆様のご健康をお祈り申し上げます。弊社は今回の震災で、運転機材の故障や資材が調達できず、特別態勢の紙面で発行、避難所を中心に配布しております。十分な部数を発行できず、また、配達態勢が整わず、読者の皆様にご迷惑をおかけして、誠に申し訳ございません。復旧に向けて努力しております。もうしばらくお待ち下さい。ご了承願います。

三陸新報社

# 細い支援のパイプ

## 大島地区 プールにわき水ため給水

気仙沼大島は今も電気が止まったまま、水道が止まったまま、避難生活が余儀なくされている。市の対策本部によると、二十五日午後八時現在、大島小に二百人、丸沖事務所に三十五人、大島開発総合センターに八十七人が避難所生活をしている。このほか、親せき宅などに身を寄せている人も多い。

島内に住む会社員によると、給水は行われているが、それだけでは足りず、わき水を大島小、中学校のプールにいったんため、その水を浄水器に通して給水しているという。ようやく島内に入るようになったガソリンは一日ドラム缶一本ほどで、すべて緊急車両用。一般車両への給油ができない状態だ。暖房用の灯油も底をつきそうという。

固定電話も通じず、何とか通じる携帯電話も充電機のある所しか充電できない。食料は今のところ、救援物資が配給されているが、島内の男性(四三)は「運航されている臨時船は便数、定員が少ないため、気仙沼地区に買い出しに行きたくても、その日に帰るの船に乗れるかどうかわからない」という。この男性は「気仙沼地区に比べ、大島への支援が薄い。大島が忘れられているように感じている。」



危険区域で救助活動続ける東京消防庁の派遣隊 (鹿折地区)

震災翌日から被災地入りし、各地で救助活動などを続けている東京消防庁の特別チーム。気仙沼市には約二百人が派遣され、二十四時間体制で活動し、倒壊家屋などから百十二人を救助したほか、二百三人の遺体を発見した。危険区域での活動が、住民の目に頼もしく映る。

現在活動している第一

救助活動で大島沖に停泊している海上自衛隊掃海母艦「ぶんご」先日、大島小六年生と大島小三年生が卒業記念として「ぶんご」に招待された。

大島小、中卒業生



招待された艦内で食事をする児童ら

# 救助活動に感謝の「目」

## 東京消防庁 疲労感忘れ現場へ

震災翌日から被災地入りし、各地で救助活動などを続けている東京消防庁の特別チーム。気仙沼市には約二百人が派遣され、二十四時間体制で活動し、倒壊家屋などから百十二人を救助したほか、二百三人の遺体を発見した。危険区域での活動が、住民の目に頼もしく映る。

現在活動している第一

軍力「を食べ、入浴、船内見学を楽しんだ。大島小三年の村上幸弘君は「食べ放題のカレー七杯食べました。お風呂も入れてさっぱりしました」と話していた。

被災地復興を優先に 石原自民 幹事長 気仙沼、南三陸視察

自民党の石原伸晃幹事長が二十六日、気仙沼入りし「写真」、被災状況を視察したほか、菅原茂市長と懇談した。

石原幹事長は、小野寺五典衆議院議員らとともに市内で特に被害が大きかった鹿折地区などを視察した後、市災害対策本部が置かれている気仙沼・本吉広域防災センターで菅原市長と懇談した。

菅原市長は、地震によって沿岸の地盤が七、十センチ沈下し、高潮時には道路や市街地が冠水していることを説明。復興には冠水対策が大



た。これに対し、石原幹事長は「与党が提出した災害対策のための補正予算案をそのまま決めるのではなく、災害復旧や被災地復興に向けて最善の策が講じられるように党内で吟味し、国会に臨みたい」と訴えた。

また、国道四五号やJR気仙沼線の橋りょうが津波で流れ、沿岸部の交通網が壊滅状態にあることも指摘された。

また、国道四五号やJR気仙沼線の橋りょうが津波で流れ、沿岸部の交通網が壊滅状態にあることも指摘された。

また、国道四五号やJR気仙沼線の橋りょうが津波で流れ、沿岸部の交通網が壊滅状態にあることも指摘された。

震災直後に発生した鹿折地区の大火災では、直径百五十センチの大口径ホースを積載した特別車で消火活動に当たった。津波被害の迅速な対応も早く家族に会わせて

震災直後に発生した鹿折地区の大火災では、直径百五十センチの大口径ホースを積載した特別車で消火活動に当たった。津波被害の迅速な対応も早く家族に会わせて